

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	利用者個別の状況に応じ、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟な支援を行っている。 自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気での支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	7人	人	人	人	人	1人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①利用開始初期は利用者・家族の不安を軽減するべく、対応についてミーティングを重ねる。</p> <p>②日々の関わりの中で、利用者の方の希望を聞き取るよう意識した対応を行い、知りえた内容は記録・フェースシートに記入し共有する</p> <p>③知りえた情報をフェースシ</p>	<p>①・サービス開始前に申し送りノートや申し送り時に本人の情報やニーズについて共有できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応については話し合いを行い、施設に早く慣れていただくよう声掛けを行い、コミュニケーションをとったり、困っていることについて気付けるような配慮をしている。 ・家族、本人と利用内容に納得するまで話し合いできている。 ・ケアマネが聴取した情報の共有はミーティングや申し送りノートを活用することでできている。 <p>②・知りえた内容は記録、フェースシートに記入されているが、読むことがあまり出来ておらず活用が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望や興味があることは記録し申し送りで共有できている。 ・利用者の方の発言や訴えはミーティングでも話題に上り随時対応している。 <p>③・知りえた情報をフェースシ</p>	<p>①利用初期段階の不安を軽減できるよう図っていることが伺える</p> <p>②フェースシートの活用がなされていないという評価が見られたことが気になる。</p> <p>③情報共有する為にフェースシ</p>	<p>①従来通り、開始初期はミーティングを重ね、申し送り・記録・フェースシートにその内容を記載し、各自確認する。</p> <p>②フェースシート、個別援助計画に知りえた思いを記入し、都度周知行う。フェースシートのファイルを作りすぐ読める位置に置く。</p> <p>③フェースシートが活用しやす</p>

	<p>トに記入することを徹底する。</p> <p>④コロナ禍により地域に出向くことは難しいが、見守り隊・民生委員の方々と推進会議等の機会を持つことで関わりを維持していく。</p> <p>⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく</p> <p>⑥コロナ禍収束までは利用者の方の地区イベント参加は困難であるが、職員の派遣については要請あれば適宜参加する。</p> <p>⑦新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、可能な限り推進会議を継続していく。開催できない時は書面配布対応を行う。</p> <p>⑧youtube等を活用した各職員の自己研修を実施。研修報告を職員会で報告し共有していく</p>	<p>トに記入できており周知もできている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェースシートの作成はケアマネが主に行っているが、細かな内容まで記入できている。 ・フェースシートは認定情報の更新時、認定更新がない年でも1年に1回は新しく作成しているので、新しい情報が入っている。 <p>④コロナ禍により推進会議等の開催が難しいが、関わりを持つことは出来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも会議開催が可能な時は実施できている。 <p>⑤・急な宿泊、利用日の方の変更など利用者の状況に合わせた柔軟な支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所、訪問、宿泊の回数の増減を都度柔軟に行っている。 ・ケアマネや連絡ノートを通じて利用者、家族の要望に応じ適宜対応している。 <p>⑥・地区のイベントはコロナ禍の影響により少ないが、ボランティアによる花見や座敷雛見学、避難訓練といった行事には参加することができた。</p> <p>⑦・令和3年度は7月と11月は実施。5月、9月、1月、3月はコロナ禍により書面開催としており、推進会議の継続はできている。</p> <p>⑧・各職員によるyoutubeを活用した自己研修は出来ており報告書も出す事ができ、職員会でも報告し共有することができた。</p>	<p>トが活用できる工夫が必要ではないか</p> <p>④めぐみが会場であったが、狭い為感染が気になっていた。公民館なら安心。</p> <p>⑦：④と同じ</p>	<p>く、読みやすくする為にフェースシートのファイルを作りすぐ読める位置に置く。</p> <p>④各種イベントは状況を見て参加する。運営推進会議はコロナ禍が落ち着くまでは真穴地区公民館で開催し、対面式での会議をできるだけ維持していく。</p> <p>⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく</p> <p>⑥コロナの状況を見ながら利用者の地区イベント参加や職員の派遣など適宜参加していく。</p> <p>⑦各種イベントは状況を見て参加する。運営推進会議はコロナ禍が落ち着くまでは真穴地区公民館で開催し、対面式での会議をできるだけ維持していく。</p> <p>⑧研修会の参加はコロナ禍により困難なため各職員の目標に則したyoutube動画を提供し各職員の自己研修を実施。研修報告を職</p>
--	--	---	---	--

	<p>⑨引き続き業務上の職員間の情報交換は利用者の傍で行わぬことを徹底する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見て報告書を書いたが、職員会で報告できなかった物もある。研修報告の方法に検討が必要。 ⑨・朝の申し送りの際、既に利用者がいるので、情報交換には小さな声で話したりイニシャルで話すなど個人が特定できないよう工夫している。 ・利用者の方の傍をなるべく離れて小声で報告するようにしている。 ・建物の構造上、完全に聞こえなくするのは難しいができるだけ利用者の傍では行わないようにした。 	<p>⑨ミーティングをしている段階で利用者が来所されていたり、ミーティング場所がオープンな状態であるためある程度はやむを得ないと理解しているが、個人情報話す時は注意はしてほしい。</p>	<p>員会で報告し共有していく</p> <p>⑨引き続き業務上の職員間の情報交換は利用者の傍で行わぬことを徹底する</p>
<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、消毒・定期的な換気、検温など徹底し感染予防に努める。 	<p>朝・昼・夕・夜間に事業所内利用者、職員が触れる手すりなど・椅子、テーブル全て消毒液で拭く。定期的な換気、利用者、職員、来客の検温、手指消毒、マスク着用を継続して実施。</p> <p>令和5年1月、事業所内でコロナ発生。その間も徹底した消毒を継続。感染拡大予防に努めた。</p>	<p>*特になし</p>	<p>R5年5月にコロナが5類に移行するが、引き続き、消毒・定期的な換気、検温など徹底し感染予防に努める。</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>見守り隊、民生委員、地域の方々と今まで培われてきた協力関係を維持していく。</p>	<p>地区の方との関わりのある事例は適宜相談、情報交換行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の方のことで問題があれば、お互いに情報を交換し対応を話し合うことができるのは有難い。 	<p>見守り隊、民生委員、地域の方々と互いに連絡を取り合える今まで培われてきた関係を維持していく</p>
<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>地区内の商店への買い物や近所への散歩、ドライブなど利用者と地域に出る機会を増やし、利用者と地域のつながりを維持する。</p>	<p>イベントへの参加はできなかったが、散歩、ドライブは継続して行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできることをしていると思う ・家でテレビを見るだけというのが一番衰える。外に出るだけでも違うので散歩など続けてほしい。 	<p>地区内の商店への買い物や近所への散歩、ドライブなど利用者と地域に出る機会を増やし、利用者と地域のつながりを維持する。5月以降状況を見ながら行事への参加なども検討していく</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域の中で心配な方やその時々 の懸念事項などについて意見を 交わせる現在の形を維持してい く。 対面での会議開催を基本とする が、新型コロナウイルスの感染等 状況によって書面開催にするな ど柔軟な対応を取り会議を維持 していく。</p>	<p>推進会議では多様な立場の参加 者と意見交換を行えている。5月、 7月は書面開催、9月は管理者コ ロナ感染により中止、1月は事業 所内でコロナが発生して中止と なった。しかし11月、3月と会場 を公民館に協力していただくこ とで、対面での会議を行えるよ うにした。</p>	<p>・運営推進会議で話題になった問 題について、会議の後、事業所が 対応するということがあった。ま たその報告、相談が適宜行われ安 心することができた ・</p>	<p>地域の中で心配な方やその時々 の懸念事項などについて意見を 交わせる現在の形を維持してい く。 真穴地区公民館に協力していた だき、令和5年度は公民館で開催 し対面での会議を行っていく</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>4月・10月に火災避難通報訓 練、7月に土砂災害避難訓練 を行う。またそれとは別に通 報機器の取り扱い訓練を2か 月に1回程度行い全職員が通 報機器が扱えるようになる。</p>	<p>4月、10月の火災避難訓練、7月 の土砂災害避難訓練実施。それと R4年2月より2か月に1回通報 機器取扱訓練を実施したことで、 全職員が一度は操作を経験し、複 数回経験した者は機械の取扱に 抵抗がなくなり訓練の効果がみ られる。今後も継続していく。</p>	<p>*特になし</p>	<p>R4年10月の避難訓練の際水消 火器により模擬消火訓練を経験。 通報機器同様消火器の操作に不 慣れな様子みられたため、・通報 機器取扱訓練と重ねて消火器取 扱訓練も実施し職員全員が落ち 着いて対応できるようになる。</p>